

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 4月号 (NO48)

2014年4月10日 (木) 発行 (毎月10日)

【農暦】育苗トレーで発芽が始まった。

○今日は4日、農作業日に恵まれず、多量の雨で水が含んでいるのではと気になったが、これ以上遅れてはと耕起した。斜面であるためか畑は意外にも水分が抜け作業ができた。

耕起のあと菊の移植などをした。客が帰られた後に、日差しが回復したので、耕起を始めたのだが終盤には雨が降って来た。柏に帰る予定であったので、雷や雹^{ひょう}に追われる様にして帰った。柏は雨が上っていたが、夜は雨足が気になる程に降っていた。なんとも落ち着かない天気^{ひょう}に翻弄される。

○翌5日は清明、生命が生き生きする季節の到来の時期と云うが、昨日までの荒天から一転し春の日差しが眩しい好天である。あけぼの山(市民農園や農業公園が隣接)の桜を見に出かけた。少し肌寒かったが、満開を少し過ぎた桜の木の下で、花見の宴がところせましと繰り広げられていた。露店の団子やたい焼きを食べ歩きしながらランタナなど3種類の花を買った。寂しくなっていた庭の鉢に植えた。

○昨年^{ひょう}に続いて柏の自宅の出窓にトマト、シシトウ、ゴーヤなどを育苗トレーに播種したが、温度が上がらないためか発芽の気配もない。昨年より12日遅い30日に播種したのだが寒い荒れた天気が続いているので、心配である。

○育苗トレーの温度を見ると15℃を下回っていたのでかけ物を増やした。PCの画面では東京の気温が7℃に下がっていた。

1℃まで下がるとの予報もある。育苗の温度が気になってストーブにも火を付けた。夜桜へ出かける予定をしていたが雨が降り始めており中止にした。“花冷え”を実感させられた。○相変わらず天候と相性の悪い行動パターンになっている。農作業を優先しない生活に主



<あけぼの山の桜>大勢の人出で、花見の宴で一杯。観光協会の花まつりの催しも。5日撮影



<孫娘などとスカイツリーへ>強風で登る事が出来なかった。空まちでショッピング。21日撮影

因があるのは判っているのだが、荒れる天気とチグハグな予定や用事を恨むことが多い。ピッコロファームのメンバーの春野菜の播種などの農作業などを伝えるメールを読みながら私もやらねばと思う。今週には、先月末に買い求めてある野菜種を蒔きたいと思っている。いよいよ農作業が楽しい時期の到来である。今こそ、やれる範囲を見極めることが大事であると思っている。小さくして充実した畑にしたい。8日には育苗トレーで発芽が始まった。10日にはラディシュの播種をした。

【楽農】耕起とトマトなど育苗！

<ハウス> ; <畑 A> ; 全般の耕起、エンドウ豆、菊、アスパラの移植。ラディシュの播種

<畑 B> ; 枯れ草・マルチなど片付け、耕起
ジャガイモの植込み

* トマト、シシトウ、ゴーヤなどを育苗トレーに播種（柏で）。

【楽市】イベント交流・直売など

○その他 ; 同窓会（14日）、「じんじん」上映会（16日）、共生の会（10日）に参加した。

* 「じんじん」と「銀の匙」「利休に尋ねよ」の映画鑑賞をした。今月は珍しく多い。

【つぶやき=Tweet】2割の地域が無人に！

○国交省は28日、少子化の影響で、全国で人が住んでいる地域のうち6割以上で、2050年（36年後）には人口が半分以下に減るとの推計を発表した（読売29日）。内訳は44%の地域は人口が半分以下に、19%地域は無人になる。人口が増えるのは大都市圏の2%（3480か所）の地域だけだ。と云う。2割が無人化と云うから地方では人がいない所が相当できる。私のいる本戸地区で60代以上がいなくなり、若い人が都市部に出て行くことを想像して見ると国交省の推計はリアルなものになる。

○神栖市の耕作放棄地の農政課による斡旋のニュースをつい先日やっていたが、農地の大規模化などは今の世代が代われれば簡単に進んでしまうのかもしれない。それより有効な対策がなければ無人の大地になってしまう方が心配である。推計では人が住んでいる地域の2割は住民がゼロになると云っているのである。農地を荒野にする前に、戦後の農地解放ではないが、農地の抜本的な管理活用などが、これからの農業のあり方と共に、問われているように思える。グローバルとローカルの視点を持った抜本的な農政が問われている様な気がしてならない。



<同窓生のOさんの絵画>作品展の案内の葉には県展入選とあったが、素敵な絵だった。許しを得て写真を撮らせて頂いた。14日撮影

○笠間市（HPによると）の空家が平成20年ベースで、4000件以上、戸建空家も1000戸以上になっていると云う。周りを見て少し先のことを考えれば容易に想像が付く。ゴーストタウンは現実の身近のものになって来ている。大きな流れには逆らうすべはないのかも知れないが、これからの処方箋は前に“土楽たより（昨年9月号）”で紹介した“里山資本主義”の中にある様な気がする。自然に戻すにしても荒野にはなって欲しくない。

○最近、カラオケが静かなブームの様に思える。カラオケボックスがやたらと目立つ。こんな状況に後押しされてか、テレビで歌謡曲関連の番組が増えた様な気がする。つい先日「北の漁場」を歌って漁師たちを励ます北島三郎が、3日だったと思うが“次世代に伝えたい昭和の名曲”100曲をやっていた。懐かしいいい曲ばかりで聴き惚れてしまった。OB会の2次会にはカラオケの場合が多い。音痴な私は下手の横好きの精神で参加している。

○OB会や同窓会が年齢故か判らないが多い。

14日に同窓会があった。当日Oさんがメンバーになっている絵画展をやっており、有志で

見に行った（2頁の写真）。私事の勝手な思い出であるが、男女2名が学校を代表して、版画家として世界的に名を知られる以前の棟方志功に版画の指導を受けた。パレットの使い方などを教えて貰った記憶が残っている。その時のもう一人の代表がOさんだったと記憶している。棟方志功と云えば行田市と関わり深い。“饅頭を食べた棟方志功が「うまい、行田名物にしておくには、うますぎる」と絶賛し、すぐさま筆をとって包装紙なった絵を描き上げた”と云われる。今でも**十万石饅頭**（*）の包装紙として、この絵が使われている。私の絵の才能は小中学で止まったままで無くなった。Oさんは流石である。下手の横好きで、いろいろな事やって来たが、大成したものがない。極めなくても、楽しめればいいで来たことが、少しだけ悔やまれる。この精神は今も続いている。少しだけ寂しい。

***十万石饅頭**はのぼうの城で映画化された忍城(藩)10万石からとられた名である。私は城跡に建てられた忍中学で学んだ。行田名物ではB級グルメのゼリーフライがある。私にとって“フライ”は懐かしの味である。

【後記】山々がうすいピンクと緑に彩られ、いよいよ春本番です。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜酒造り工程の模型＞ラーメン料理など本物そっくりの作物も。大混雑の「空まち」で。21日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torac-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>